

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

- (1)調査時点 平成 30 年 4 月 1 日
(2)調査対象期間 平成 30 年 1 月～3 月期の実績および平成 30 年 4 月～6 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	17 社	56.7%
水産業部会	30 社	18 社	60.0%
機械工業部会	30 社	8 社	26.7%
建設業部会	30 社	19 社	63.3%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	15 社	50.0%
合 計	150 社	77 件	51.3%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

－業況は大幅な悪化。来期は僅かに好転の見込み－

1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成30年1月～3月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比で▲23.4**と前回調査時の0.0より**23.4ポイントの悪化**となりました。

部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業[前年DI値▲37.5→**今期▲52.9**]、水産業[前年DI値▲47.1→**今期▲22.2**]、機械工業[前年DI値▲36.4→**今期▲50.0**]、建設業[前年DI値5.9→**今期15.8**]、観光サービス・諸業[前年DI値20.0→**今期▲26.7**]となりました。

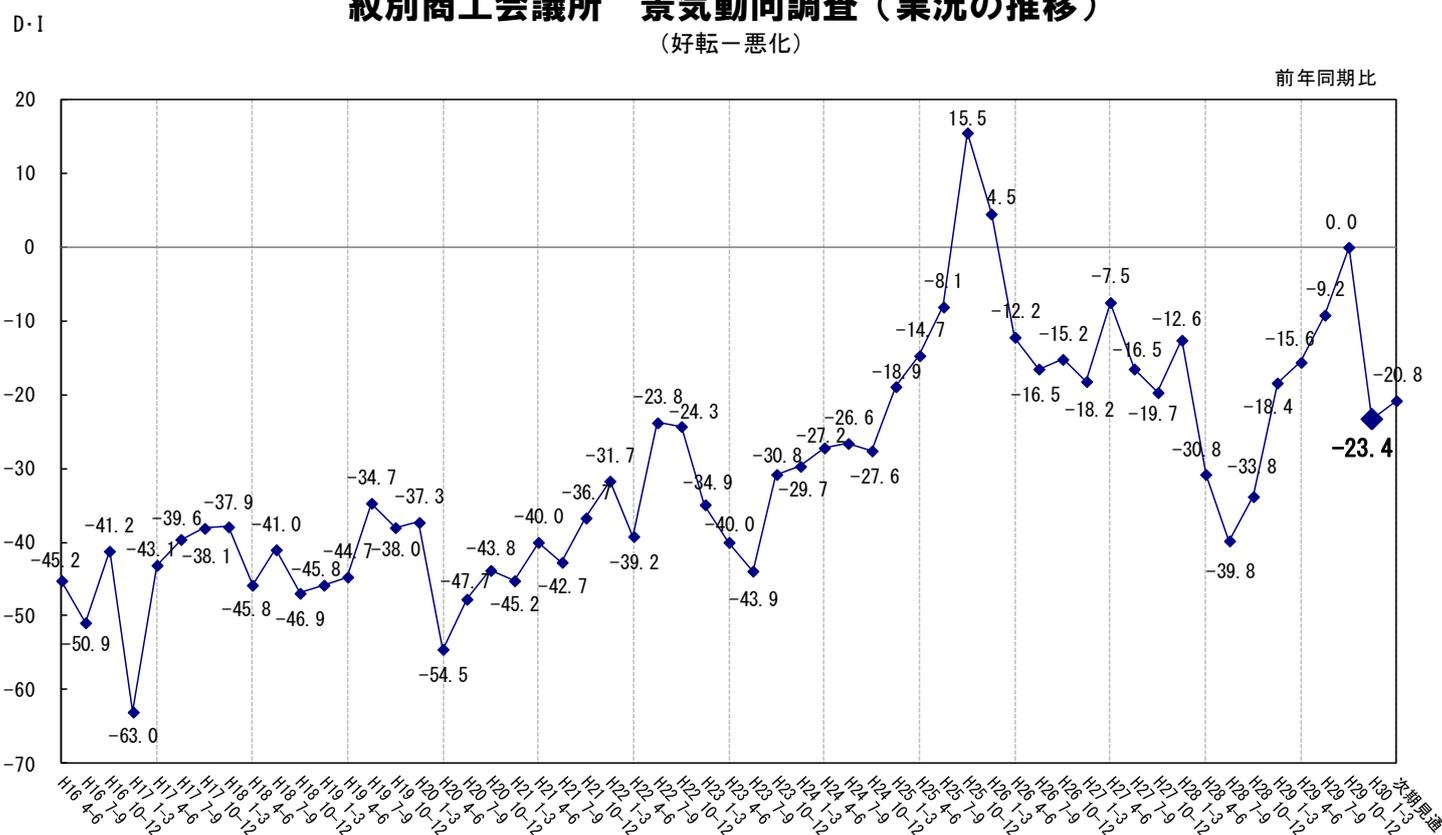
今回の調査では、水産業と建設業が好転していますが、他の業種は悪化となり、特に観光サービス業・諸業は大幅な悪化の値を示しており、高齢化や人口減少の影響が大きく影響してきています。

次期(平成30年4月～6月)については、全体では今期と比べて**業況判断DIは好転(次期見通し▲20.8)**の予測となっており、ほとんどの業種が好転の見通しとなる中、唯一建設業だけが「悪化」の見通しとなっています。市外業者の参入に加え、受注があっても人員不足により仕事をこなしきれないという声も寄せられています。

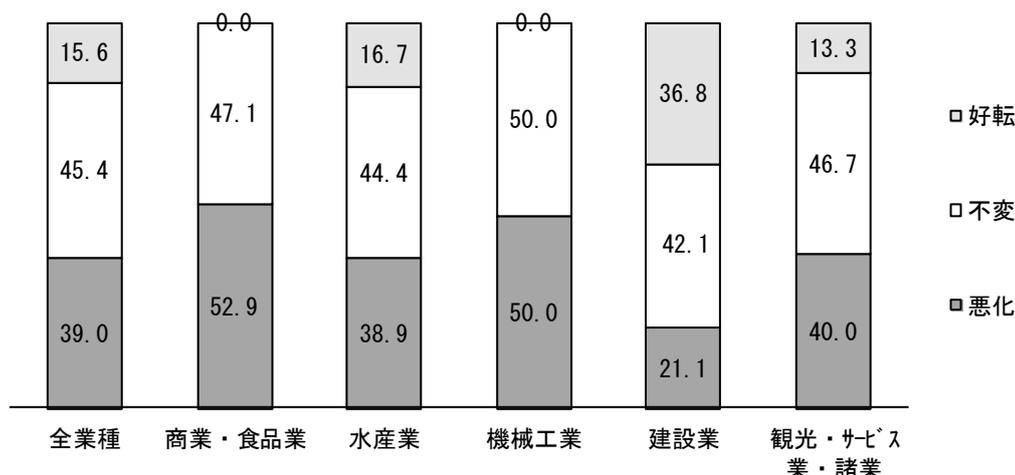
今年度(平成29年度)の業況は、28年度と比較すると好調に推移していたことが伺えます。来期からは新年度となり、各方面で事業が本格的に動き出すことから、見込み以上の更なる業況の回復に期待していききたいと思います。

紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)

(好転－悪化)



今期の業況（前年同期比）



全業種の経営上の問題点としては、「消費者ニーズの変化への対応」「材料等の仕入単価の上昇」「従業員の確保難」「需要の停滞」を訴える声が多く寄せられています。

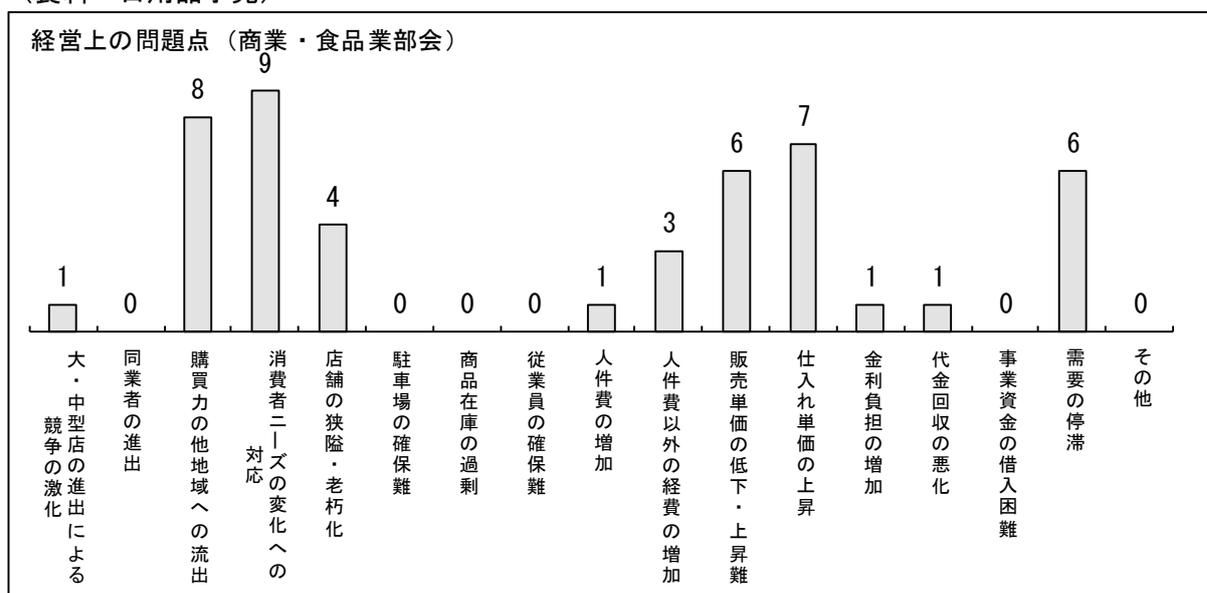
■部会別の動向

【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲52.9（前年DI値▲37.5、来期見通し▲35.3）〕

業況DI値（前年同期比）は、15.4の悪化となっています。市内外の大型店やインターネット通販の利用者増加に購買力の流出で、市内での消費活動が低調に推移しているとの声が多く寄せられています。次期見通しは、今期よりやや回復する見通しとなっております。経営上の問題点としては「消費者ニーズの変化への対応」「購買力の他地域への流出」を訴える声が依然として多くなっております。

《業界の問題点等》

- ・客層の高齢化（衣料品小売）
- ・ネットを利用した小売対リアル店舗の争いが激化していると考えます。地元の資源をサステイナブルにする取り組みを。（食料・日用品小売）
- ・売上減少。仕入単価の上昇により、購買力の低下等によって依然と厳しくなっていく。（食料・日用品小売）



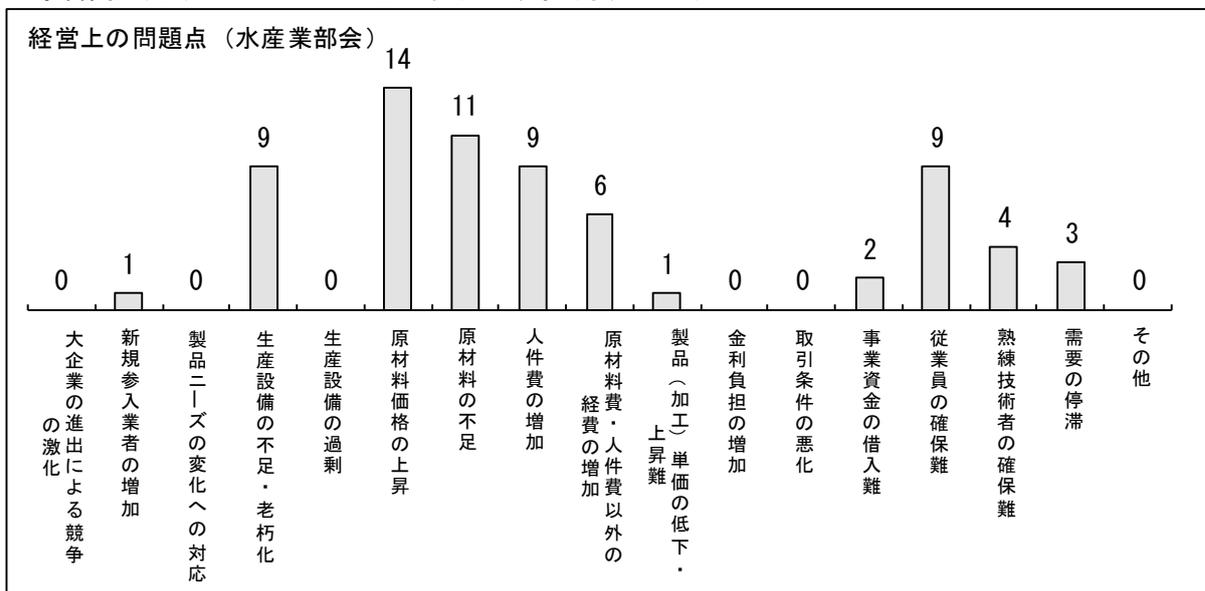
【水産業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲22.2（前年DI値▲47.1、来期見通し5.6）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、大幅な回復となりました。やや好転との回答もあることか

ら、休漁期ではあるものの業況回復の兆しが出てきたものと思われます。経営上の問題点としては「原材料価格の上昇」「原材料の不足」が突出して多く寄せられております。来期は、海明け後の花形である毛がに漁や資源回復が見込まれているホタテの水揚げも始まることから、大きく好転する見通しとなっています。

《業界の問題点等》

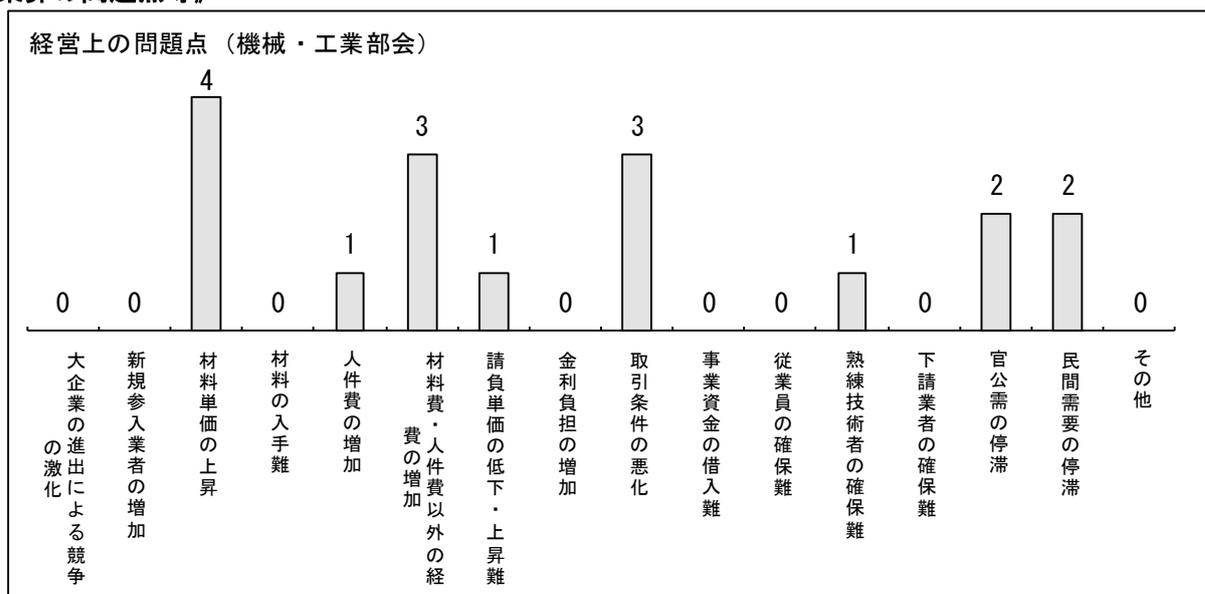
・原料高で売りがついていかない状況です。(水産加工)



【機械工業部会】〔業況判断DI値(前年同期比)▲50.0(前年DI値▲36.4、来期見通し▲37.5)〕

業況判断DI値(前年同期比)は、前年比13.6ポイントの大幅な悪化となりました。水産に係わる資材を扱う業種その他、自動車修理、鉄工関係で悪化を示す値となっております。来期の業況見通しは今期よりも改善する予想となっており、本年7月に市議会議員選挙が行われることから、印刷等、選挙に付随する業務が増加し、更なる回復への期待感が持たれます。経営上の問題点としては「材料単価の上昇」「材料費・人件費以外の経費の増加」「取引条件の悪化」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》



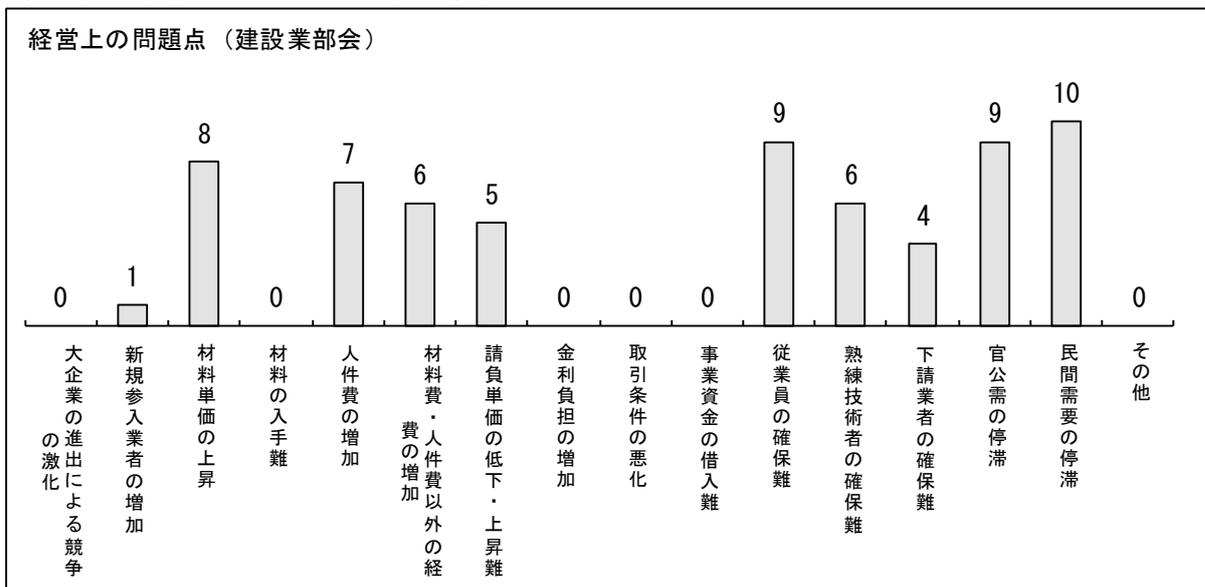
【建設業部会】〔業況判断DI値(前年同期比)15.8(前年DI値5.9、来期見通し▲26.3)〕

業況判断DI値(前年同期比)は前年比9.9ポイントの回復となりました。建築申請は前年と比べて落ち込んでいるものの、酪農家の設備改修、新築等、近代化に向けたリニューアルの工事や一般住宅の内装工事の他、年度末の精算等も起因して順調に推移したものと思われます。次

期見通しは、大幅に悪化するとの見方となっております。経営上の問題点としては「民間需要の停滞」「従業員の確保難」「官公需の停滞」を訴える声が多くなっております。

《業界の問題点等》

- ・ 従業員の確保良くならず！（管工事業）

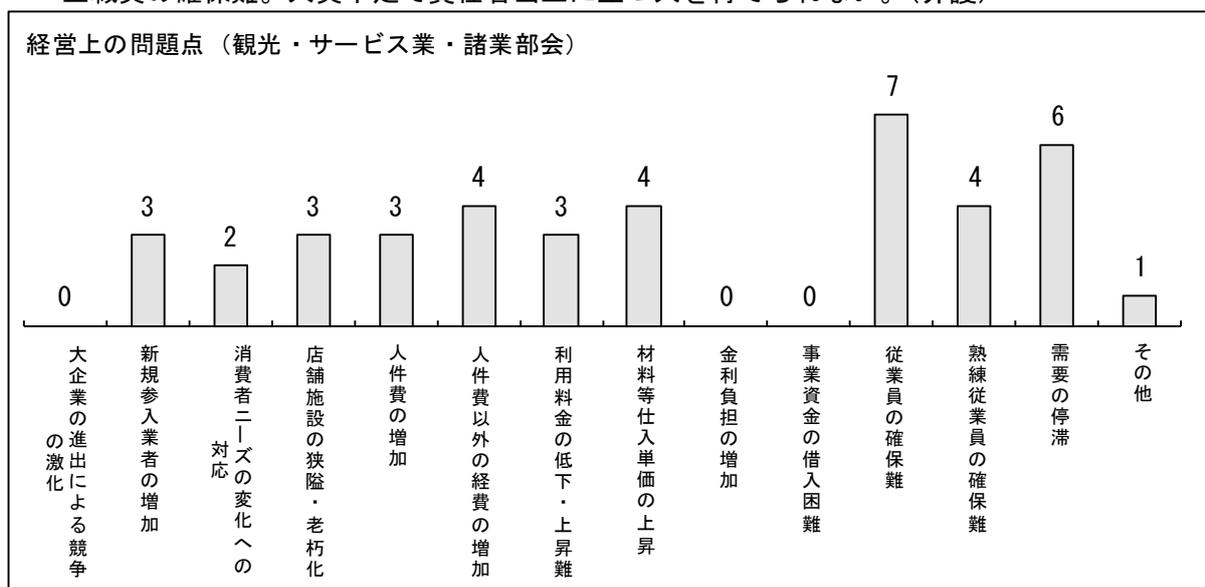


【観光・サービス業・諸業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲26.7（前年DI値20.0、来期見通し▲20.0）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前年よりも46.7ポイントの大幅な悪化となりました。人口減少による影響を大きく受け、生活関連のサービス業では高齢化に伴う顧客の減少等が顕著に表れています。また消費者の需要のみならず、従業員の確保にも苦慮しているとの声が多く寄せられております。経営上の問題点としては、「従業員の確保難」「需要の停滞」を訴える声が多くなっております。

《業界の問題点等》

- ・ すべて不景気です。（運送業）
- ・ 仕入単価の上昇。夜の従業員の不足。（飲食業）
- ・ 人ありきの商売。いくらサービス向上の努力をしても、人が増えない、人口が増えなければ現状維持もままならないし、売り上げ増などありえない。（旅客運送業）
- ・ 正職員の確保難。人員不足で責任者当上に立つ人を育てられない。（介護）



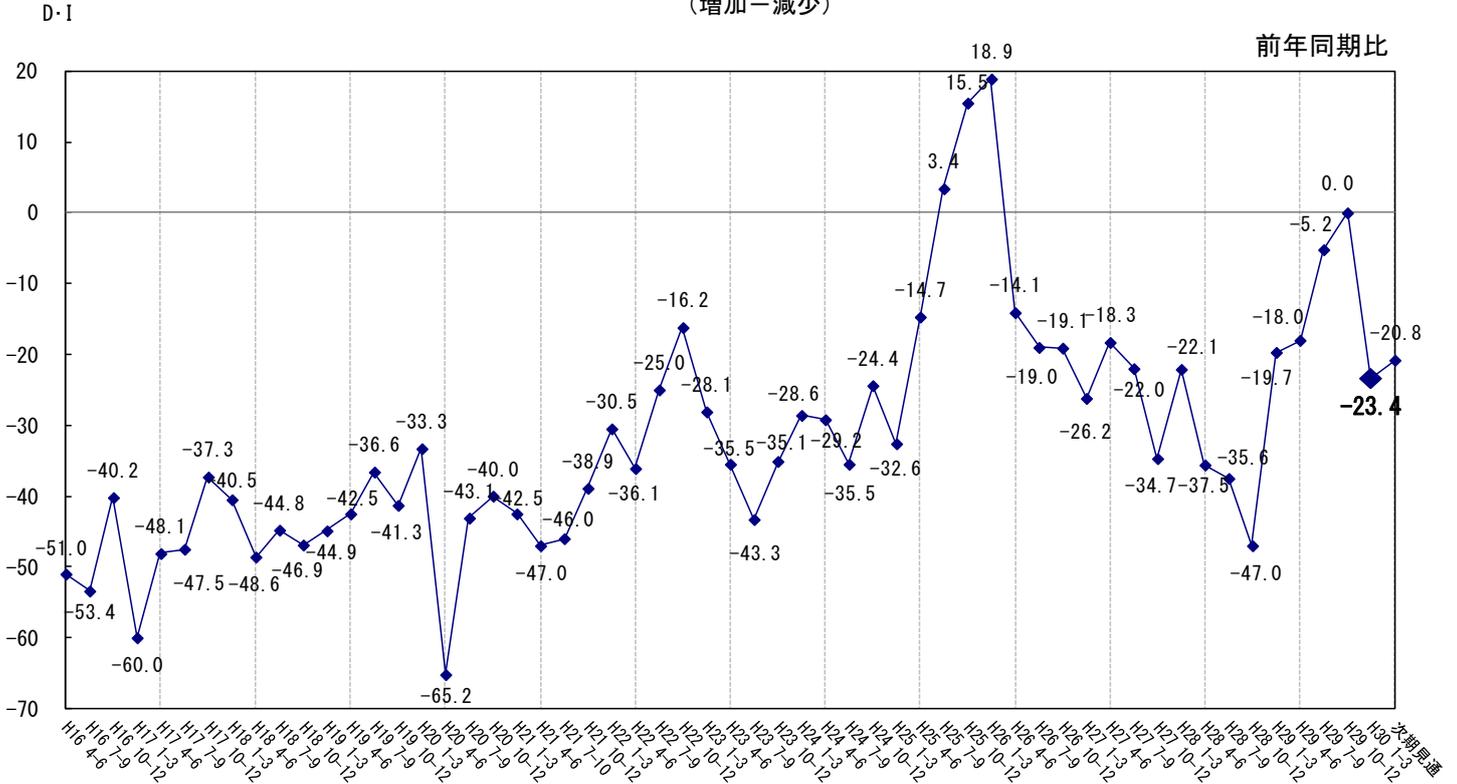
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

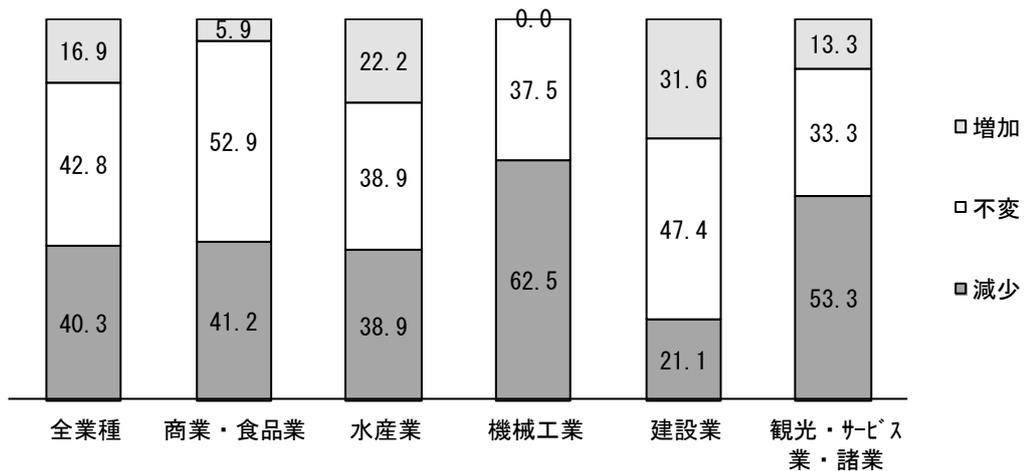
【前年同期比】（平成 29 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の売上高）

売上高・生産高推移（全業種平均 D・I）

（増加－減少）



今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均で DI 値▲23.4〔前回調査時（平成 29 年 10～12 月期 0.0）より 23.4 ポイント悪化〕

水産業と建設業で好転。その他の業種は大幅な悪化。

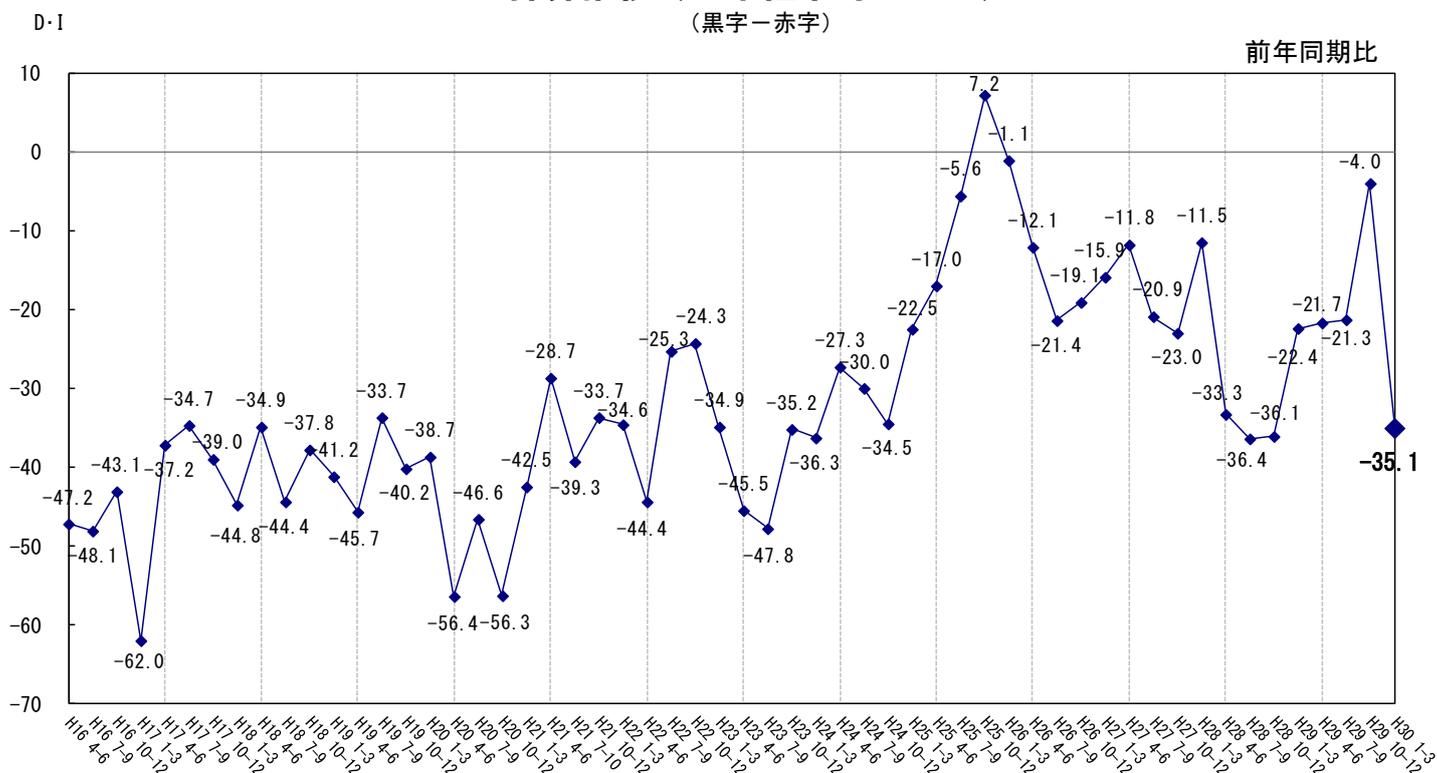
〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年▲25.0→▲35.3〕、水産業〔前年▲47.1→▲16.7〕
 機械工業〔前年▲45.0→▲62.5〕、建設業〔前年▲5.9→10.5〕
 観光・サービス業・諸業〔前年 20.0→▲40.0〕

(2) 今期の採算

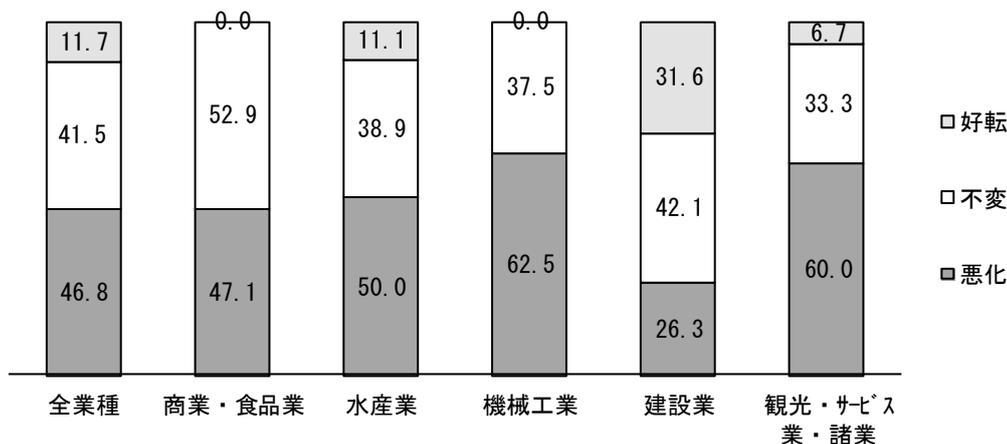
【前年同期比】（平成 29 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の採算水準）

採算推移（全業種平均 D・I）

（黒字－赤字）



今期の採算（前年同期比）



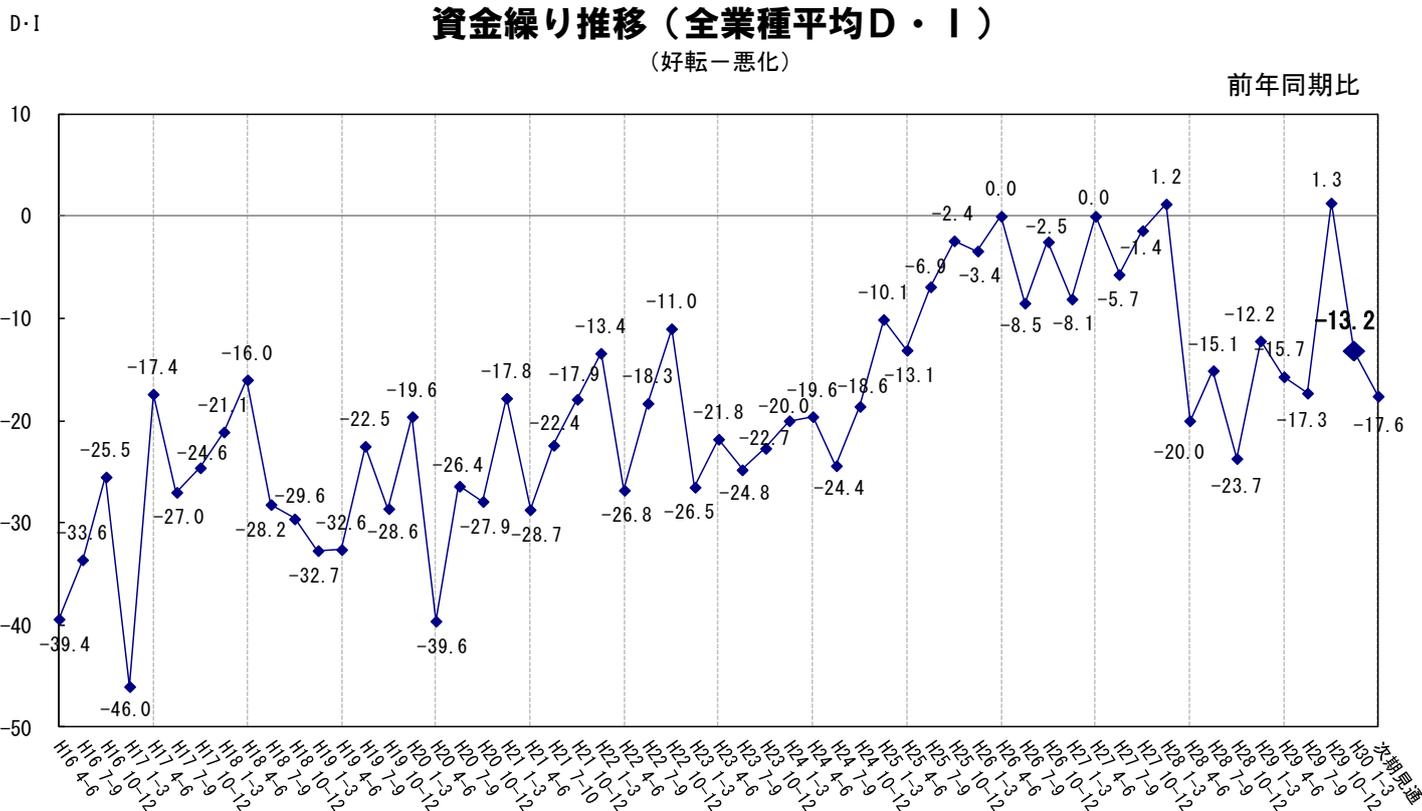
全業種平均で DI 値▲35.1〔前回調査時（平成 29 年 10～12 月期▲4.0）より 31.1 ポイント悪化〕

水産業、建設業は回復したが、その他の業種で大幅な悪化。

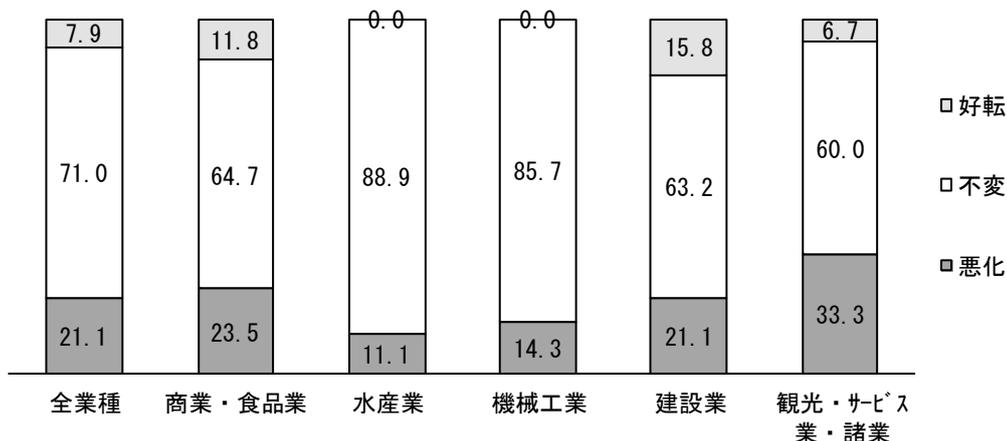
〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年▲37.5→▲47.1〕、水産業〔前年▲52.9→▲38.9〕
 機械工業〔前年▲9.1→▲62.5〕、建設業〔前年▲5.9→5.3〕
 観光・サービス業・諸業〔前年 0.0→▲53.3〕

(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成 29 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の資金繰り）



今期の資金繰り（前年同期比）



全業種平均で DI 値▲13.2〔前回調査時（平成 29 年 10～12 月期 1.3）より 14.5 ポイント悪化〕

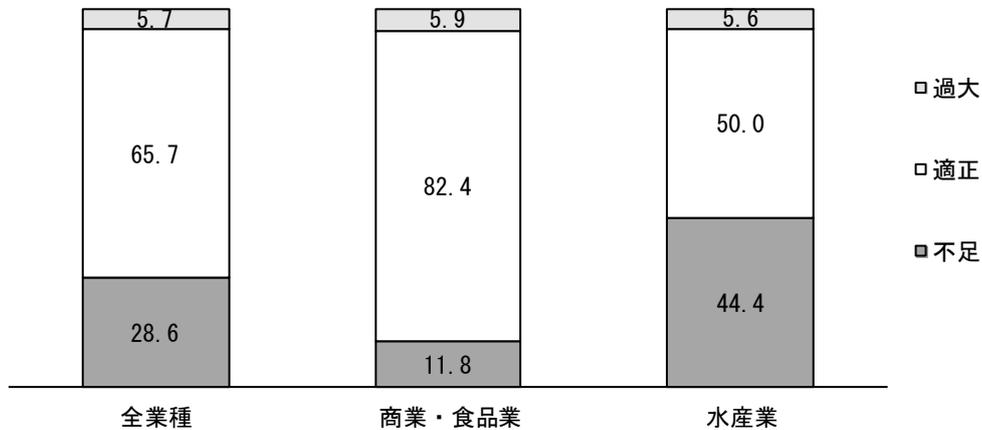
水産業、機械工業が改善。その他の業種で悪化。

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年▲6.7→▲11.8〕、水産業〔前年▲35.3→▲11.1〕
 機械工業〔前年▲18.2→▲14.3〕、建設業〔前年 11.8→▲5.3〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲14.3→▲26.7〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 29 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）



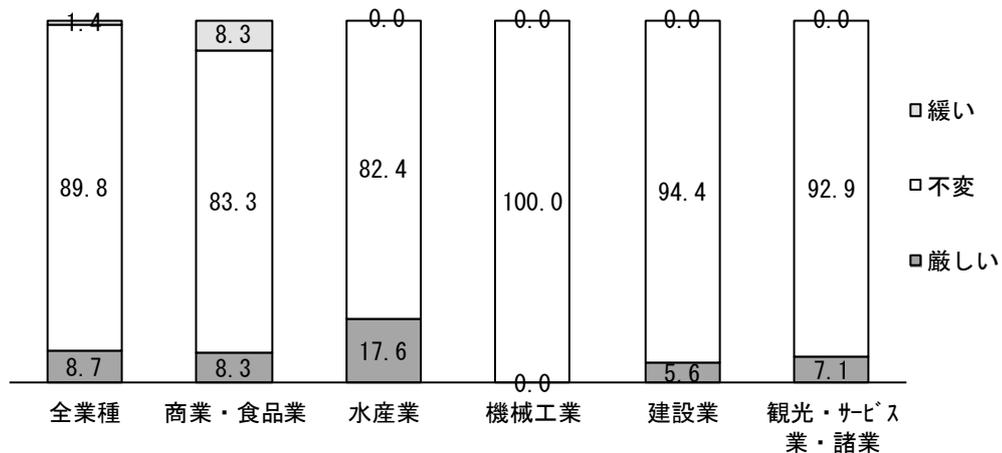
全業種平均で DI 値▲22.9〔前回調査時（平成 29 年 10～12 月期▲16.6）より 6.3 ポイント在庫不足〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年▲6.3→▲5.9〕、水産業〔前年▲41.2→▲38.9〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】（平成 29 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）

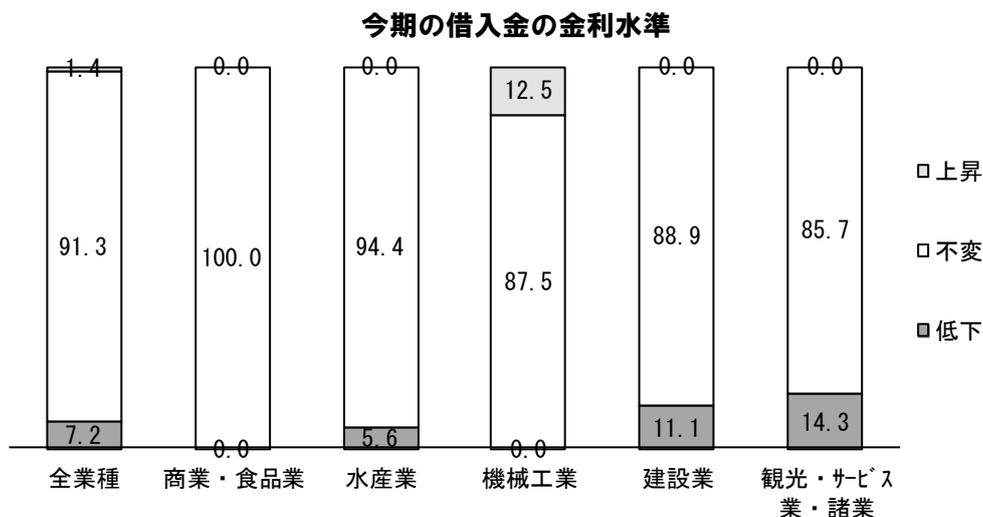
今期の金融機関の貸出姿勢



全業種平均で▲7.3 ポイント。商業食品業 0.0、水産業▲17.6、機械工業 0.0、建設業▲5.6、観光・サービス業・諸業▲7.1

(6) 今期の借入金の金利水準

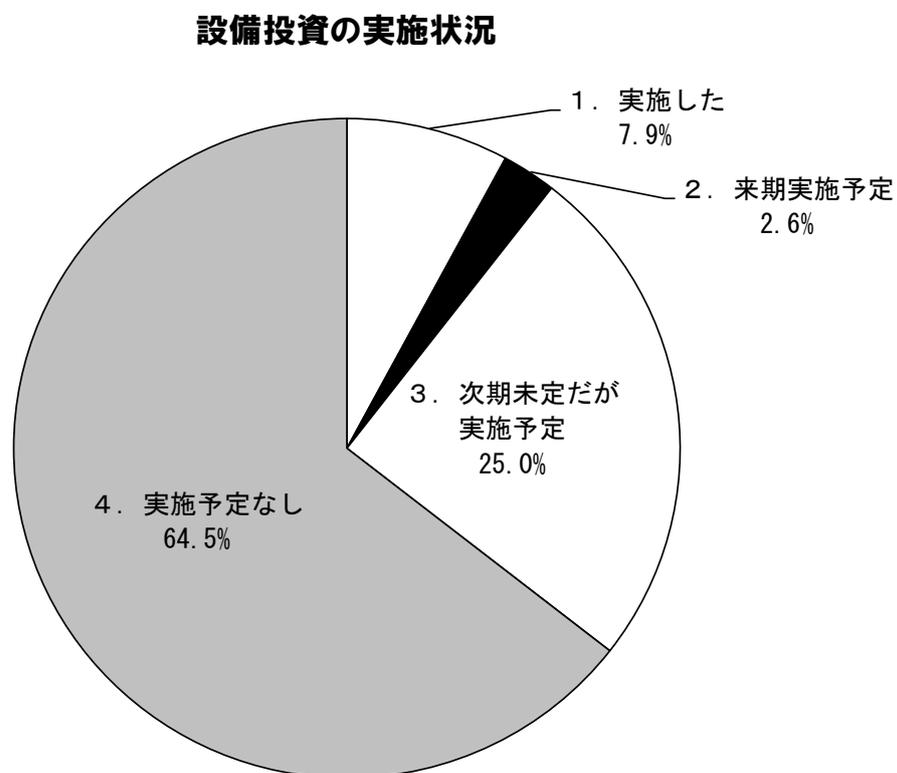
【前年同期比】（平成 29 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で▲5.8。商業食品業 0.0、水産業▲5.6、機械工業 12.5、建設業▲11.1、観光・サービス業・諸業▲14.3

(7) 設備投資の実施状況

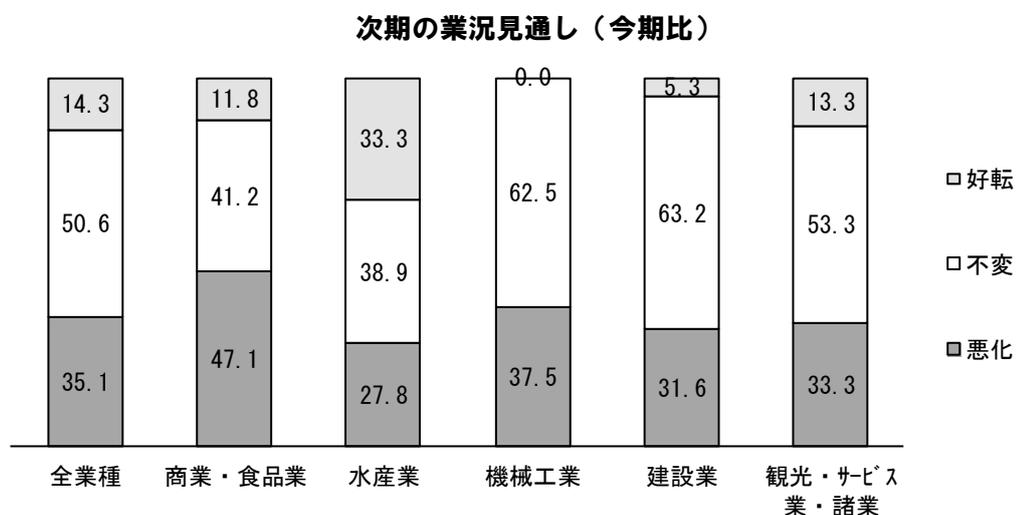
今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について



3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

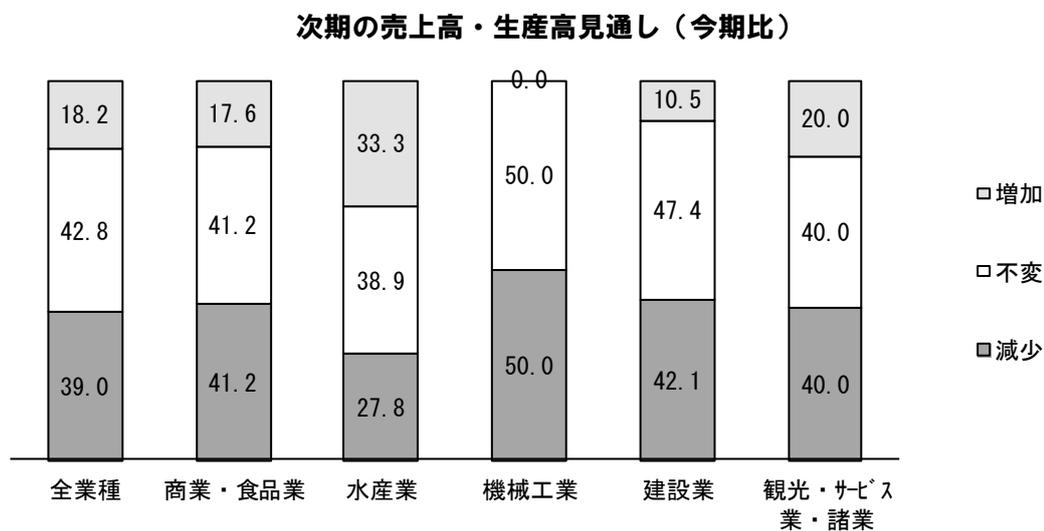
【今期比】（平成30年1月～3月期の水準と比較した来期の業況見通し）



全業種平均 DI 値▲20.8 [今期の業況（前年同期比▲23.4）より 2.6 ポイント回復の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成30年1月～3月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

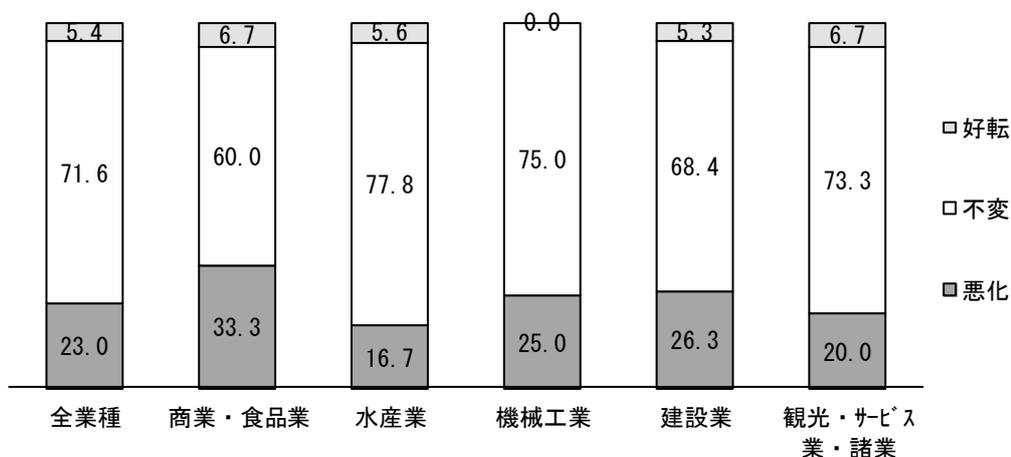


全業種平均 DI 値▲20.8 [今期の売上高・生産高（前年同期比▲23.4）より 2.6 ポイント好転の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成30年1月～3月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均DI値 ▲17.6〔今期の資金繰り（前年同期比▲13.2）より4.4ポイント悪化の見通し〕

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食品業	水産業	機械工業	建設業	観光サービス業 ・諸業
業況判断 D・I	今期実績	▲23.4	▲52.9	▲22.2	▲50.0	15.8	▲26.7
	来期見通し	▲20.8	▲35.3	5.6	▲37.5	▲26.3	▲20.0
売上・生産 D・I	今期実績	▲23.4	▲35.3	▲16.7	▲62.5	10.5	▲40.0
	来期見通し	▲20.8	▲23.5	5.6	▲50.0	▲31.6	▲20.0
在 庫 D・I	今期実績	▲22.9	▲5.9	▲38.9	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採 算 D・I	今期実績	▲35.1	▲47.1	▲38.9	▲62.5	5.3	▲53.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲13.2	▲11.8	▲11.1	▲14.3	▲5.3	▲26.7
	来期見通し	▲17.6	▲26.7	▲11.1	▲25.0	▲21.1	▲13.3
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	▲7.3	0.0	▲17.6	0.0	▲5.6	▲7.1
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	▲5.8	0.0	▲5.6	12.5	▲11.1	▲14.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。